図　徐福文化分布図（丸数字は、 表」に対応）

①	北海道富良野市
②	青森県中泊町
③	秋田県男鹿市
④	東京都北区
⑤	東京都八丈町、青ヶ島村
⑥	神奈川県藤沢市、秦野市、相模原市
⑦	山梨県富士吉田市、河口湖町、山中湖村
⑧	長野県小布施町
⑨	愛知県豊川市
⑩	愛知県名古屋市熱田区
⑪	京都府伊根町、与謝野町
⑫	三重県熊野市
⑬	和歌山県新宮市
⑭	岡山県倉敷市
⑮	広島県宮島町

⑯	山口県上関町祝島
⑰	高知県佐川町
⑱	福岡県筑紫野市
⑲	福岡県八女市
⑳	佐賀県佐賀市、伊万里市、武雄市
㉑	宮崎県延岡市
㉒	鹿児島県いちき串木野市

表 全国の徐福文化一覧

・表中の丸数字は分布図に対応

・文献資料で『徐福さん』としているのは、2005年鳥居貞義氏が編集した書籍で、各地の郷土史家が執筆したもの。

・この一覧表は、日本徐福協会と華雪梅氏の共同研究を加工したもの。

市町村		徐福文化	徐福関連物（建築物、像、絵画等）	文献資料
北海道	富良野市 ①	静修熊野神社（明治時代に宮城県熊野神社から分神）	静修熊野神社ご神体(ご神体が中国風で、徐福の可能性	菅原富夫『富良野町郷土をさぐる会機関誌(第21号)』(2004年)
青森県	中泊町（旧小泊村） ②	1 権現崎に漂着 2 尾崎神社の脇侍（わきじ）として祭る 3 航海安全の神 4 船の右櫓伝統の伝来	1 尾崎神社徐福木像(江戸時代末期) 2 権現崎徐福上陸地の標柱(1995年) 3 徐福像（2002年） 4 徐福の里公園（2004年）	1 菅江真澄『菅江真澄遊覧記』(1796年前後) 2 『徐福さん』(柳澤良知「小泊と徐福」) 3 中泊町観光課案内書『徐福と中泊』
秋田県	男鹿市 ③	菅江真澄『男鹿五風』(1810年）に徐福塚の絵図と記述	徐福塚（2005年、旧永禅寺内に復元）	1 菅江真澄『男鹿五風』 (1810年) 2 山本次男『男鹿門前徐福渡来伝説』(近年)
東京都	北区 ④	徐福の船を描いた縁起絵巻	若一王子（にゃくいち）縁起絵巻(1641年)	北区飛鳥山博物館特別展資料（2018年）
	八丈町及び青ヶ島村 ⑤	徐福は熊野に留まったが、童女500人は八丈島、童男500人は青ヶ島へ。一緒に住むと海神の祟りがあるが、年に一度童男は八丈島に渡ることが許される。	伝説を唄った民謡の碑を青ヶ島を遠望できる海岸に建立	1『伊豆海島風土記』(1781年) 2 滝沢馬琴『椿説弓張月』(1805年) 3 八丈町教育委員会『八丈島誌』(1983改訂版) 4 「徐福さん』(笹本直衛「八丈島と徐福」)

神奈川県⑥	藤沢市	福岡家の先祖は、徐福である。徐福は富士山に住み着き、子孫は秦や福岡を名乗った。	藤沢市妙善寺の福岡家墓及び墓誌(1554年)	1 藤沢市妙善寺の福岡家墓誌 (1554年) 2 姫井倫子『徐福フォーラムin神奈川資料集』「徐福の子孫・藤沢妙善寺福岡家の墓標」(2007年)
	秦野市	徐福がインド人僧侶から預かったインドの仏像を、始皇帝子孫が秦野に持ってくる。	宝蓮寺の仏像	1『宝蓮寺真名縁起』(1700年以降) 2 石川『宝蓮寺真名縁起現代語訳』(HP)
	相模原市藤野町	徐福が中国から持ってきた秦始皇帝の像を当地に残す。	唐土大明神像＝始皇帝像（火災により焼失したが写真が残る）	1『唐土大明神之由来書』(1755年) 2 池上正治講演資料(2019年)
山梨県⑦	富士吉田市	1 徐福一行が富士山麓に定住。子孫はみな秦氏を名乗る。 2 徐福が鶴となり飛びかっていたが、死んで葬られた。	1 徐福墓(推定江戸時代中期) 2 徐福祠、徐福像(1998年) 3 福源寺の鶴塚(1698年）及び鶴塚碑（1798年） 4 徐福碑(1999年、徐福顕彰奉賛会が北口本宮冨士浅間神社近くに建立)	1 釈義楚『義楚六帖』(954年) 2『鶴塚碑』(1798年) 3 徐福『宮下文書』(明治時代の偽書？) 4 『徐福さん』(土橋寿「富士山徐福」) 5 『山梨の伝説』(土橋寿「ツルになった徐福」山梨国語教育研究会編) 6 富士山徐福学会案内書『富士山徐福』(2016年)
	富士河口湖町	徐福の子孫は秦氏又は羽田氏と称する。	・波多志神祠(江戸後期) ・徐福秦大明神の祠として再建(1965年)	1 『甲斐国誌』第71巻(1814年) 2『河口御師由緒』(江戸時代中期) 3 『徐福さん』(羽田武栄「富士北麓・徐福伝説の考証」

	山中湖村	長池集落は昔長寿村と称し、子孫は羽田氏を名乗る。	イチイの巨木 （根元に羽田家の先祖が埋葬）	『山中湖村史』（「徐福の子孫の伝承」1992年）
長野県	小布施町 ⑧	葛飾北斎日本画	「富嶽と徐福」 (1846年) （小布施町北斎館）	逵志保『徐福、富士に不死を見る』(2016年、富士山徐福フォーラム講演資料)
愛知県	豊川市 ⑨	徐福一行が熊野からこの地に移り住んだ。	菟足（うたり）神社	1『牛窪（うしくぼ）記』　(1696年頃) 2 菟足神社看板
	名古屋市熱田区 ⑩	徐福は童女500人を連れて海島を得て戻らなかった。そこが熱田神祠	熱田神宮	1 漢詩集『東海瓊華集』(室町時代) 2 逵志保『大学的愛知ガイド』2014年)
京都府⑪	与謝野町	徐福と仙人が対面する屏風絵	与謝蕪村の屏風画 (与謝野町施薬寺)	『方士求不死薬図』 (1755年ごろ)
	伊根町	徐福は邑長となり、村人を導いた。死後は新井崎神社に産土神として奉納。他の文献では祭神は童男童女。	1 新井崎神社 （創建998年） 2 童男女の木像 （新井崎神社） 3「新大明神口」碑 （2007年）	1 『新大明神口碑記』 (1859年) 2 徐福案内書 (丹後徐福研究会) 3 『 徐福さん』(石倉昭　重「丹後の徐福伝説」
三重県	熊野市波田須町 ⑫	徐福が焼き物、製鉄を伝えた。	1 徐福の宮 1957年再建 2 徐福の墓 (1907年) 3 徐福が焼いたとされるすり鉢 4 秦の半両銭（徐福の宮で出土）	1 熊野市案内書『熊野波田須･徐福伝説の里を訪ねて』 2 逵志保『徐福論』 (2004年)
和歌山県	新宮市 ⑬	1 熊野浦に漂着 2 医薬の神 3 農業・漁法・捕鯨・製紙などの技術の伝来	1 秦徐福之墓 （1736年一説） 2 秦徐福碑（1835年､1940年復元） 3 徐福像（1997年） 4 七塚之碑 （1916年） 5 不老の池 （1997年）	1 無学祖元『献香於紀州熊野霊祠』(1279年前後) 2 絶海中津と明太祖の唱和詩『応制賦三山』･『御製賜和』 （1376年） 3 林羅山『倭賦』 （1612年）

			6 徐福公園（1994）（旧徐福廟は1937年設置） 7 由緒板（1994年、中国龍口市寄贈） 8 阿須賀神社の徐福宮（1985年復元） 9 徐福上陸地	4 「徐福宮」の記載の古地図(1644年) 5 松下見林『異称日本伝』（1688年） 6『西国三十三所名所図会』（1853年） 7 長井定宗『本朝通紀』（1698年） 8 『徐福さん』（奥野利雄「新宮の徐福さん」） 9 新宮市案内書『徐福』（2012年）
岡山	倉敷市⑭	真言宗安養寺の石像が徐福の可能性	徐福とされている石像	池上正治『徐福』（2007年）
広島	宮島町⑮	「蓬莱岩」は徐福が来たから。	蓬莱岩（北端の聖崎）	宮島観光協会HP
山口県	祝島⑯	徐福が使ったとされる碁盤石が残されている。	徐福の碁盤石	田島孝子・重村定夫『アジア遊学No53』（2003年）
高知県	佐川町⑰	土佐の宇佐に漂着した徐福が虚空蔵山に登ったが仙人に会えなかった。	徐福顕彰碑（1993年）	1『虚空蔵山・鉾ガ峰縁起』 2 池上正治『土佐の徐福伝説を探る』（2015年）
福岡県	筑紫野市⑱	徐福の船を天山の巨石に繋いだ。	童男卯女（かんにょ）(揚巻髪の女の子）船繋石	『筑前国続風土記』（1700年ごろ）
	八女市⑲	・童男山古墳の舟形石棺は、徐福の乗ってきた船が石化したもの。 ・「童男山ものがたり」（1948年地元の小学校で制作：徐福の船が難破し、徐福が海岸に打ち上げられたが住民の介抱むなしく息を引き取った）	1 童男山古墳及び舟形石棺（古墳時代） 2 徐福像及び童男童女像（2003年）	1『北筑雑藁』真辺仲庵（1675年以前） 2『筑後地鑑 上巻』（1683年） 3『筑後志　巻三』（1777年） 4 逵志保『徐福論』（2004年） 5 『徐福さん』「赤崎敏男「八女の徐福」 6 案内書『徐福と童男山ふすべ』（2006年）

佐賀県⑳	佐賀市	1 浮盃に漂着 2 寺井津で手を洗う。 3 新北神社にあるビャクシンを植樹 4 千反の布を敷いて金立山へ向う 5 片葉の葦とエツ 6 お辰との恋愛物語 7 古湯温泉の発見 8 金立神社大権現 9 農耕の神・雨乞の神 10農耕など技術の伝来 11船の右櫓伝統の伝来	1 金立神社 2 甲羅弁財天（1688年） 3 徐福長寿館（1995年） 4 筑後川河畔の徐福像（2011年、慈渓市寄贈） 5 徐福長寿館館内の徐福像（1995年） 6 徐福長寿館館外の徐福像（2005年連雲港市寄贈） 7 諸富町サイクルロード徐福像（1990年） 8 徐福上陸地記念碑（2005年） 9 お辰観音像（1745年） 10筑後川昇開橋の徐福像（2012年）	1 絹本淡彩「金立神社縁起図」(1648年) 2 山本常朝『葉隠』（1716年前後） 3 伊藤常足『太宰管内志』　（1841年） 4 『佐賀県神社誌要』（1926年） 5 大串達郎『徐福さん』「佐賀平野の徐福伝説」(2005年) 6 案内書『佐賀県の徐福物語』
	伊万里市及び武雄市	徐福一行は天童の岩(伊万里市)や鳳来山(武雄市)に行ったが霊薬は得られず、さらに杵島方面に向かった。		1 大串達郎『徐福さん』「佐賀平野の徐福伝説」(2005年) 2 案内書『佐賀県の徐福物語』
宮崎県	延岡市㉑	徐福の船を、蓬莱山の徐福岩に繋いだ。	1 徐福堂、徐福像（銅像） 2 徐福岩	『徐福さん』(渕脇次男「宮崎県の徐福伝承」)
鹿児島県	いちき串木野市㉒	徐福は不老不死の妙薬を求めてこの地に来て冠嶽に冠を埋め、熊野に行った。皆はここに熊野権現の祠を建てた。	1徐福像（日本最大の徐福像） 2 徐福祠廟 3 冠嶽園（中国風庭園）	1 薩摩藩『三国名勝図絵』(1843年) 2 三善喜一郎『徐福さん』「串木野の徐福」(2005年) 3 冠嶽山鎮国寺頂峰院ホームページ

次の表は、「徐福が求めた霊薬」、「定例行事・祭祀」「始皇帝又は徐福子孫」の三つの種類ごとに各地の伝説をまとめたもの。

徐福が求めたとされる不老不死の霊薬

・青森県中泊町：行者ニンニク、トチバ人参、権現オトギリ草
・東京都八丈島：明日葉(アシタバ)、別名「ハチジョウソウ」
・山梨県富士吉田市：コケモモ
・三重県熊野市：アシタバ、トチバニンジン、天台烏薬
・山口県祝島： コッコー
・京都府伊根町：黒茎の蓬、九節の菖蒲
・和歌山県新宮市：天台烏薬
・佐賀県佐賀市：フロフキ（寒葵）

徐福の定例行事、祭祀活動

・青森県中泊町：中泊徐福まつり（8月27日、2013年開始）
・和歌山県新宮市：熊野徐福万燈祭（8月12､13日1962年開始）
・福岡県八女市：童男山ふすべ（徐福の紙芝居は、1947年開始）
・佐賀県佐賀市：金立神社例大祭（50年に一回　4月27～29日
　　前回は1980年　開始年は不明）
・鹿児島県いちき串木野市：花冠祭（4月中旬、2002年開始）

秦の始皇帝又は徐福の子孫とする伝説

（注：秦氏伝説については、第６章に記載）
・山梨県富士山麓：徐福の子孫は、秦氏を名乗る。(『義楚六帖』)
・山梨県富士河口湖町：甲斐国史第71巻1841年、波多志(はたし)神祠
・山梨県山中湖村長池：徐福子孫は羽田氏を名乗る。
・神奈川県藤沢市：徐福の子孫は秦や福岡を姓とした。先祖は富士山麓から秦野、さらに藤沢に移住した。(福岡家墓誌)

徐福と秦氏を結びつけた伝説は山梨県と神奈川県だけに見られる。これは中国の『義楚六帖』の記載の影響と、現に富士山麓に羽田さんが多いことや、秦野の地名と関連付けられたと考えられる。